

心に響いた音楽会

副校長 四海 満

日に日に秋が深まる晩秋の季節となりました。

井荻小学校では13日(金)、14日(土)と音楽会を開催しました。今年度の音楽会は、「心にひびけ! みんなのハーモニー」をスローガンにして取り組みました。慣れない楽器に挑戦した子もいたでしょう。また、音楽があまり得意ではないという子もいたことでしょう。しかし、みんなで力を合わせて、最後まで粘り強く練習に取り組みました。たくさんの保護者、地域の皆様や来賓の方々に鑑賞していただき、心温まるご声援をいただきました。大変ありがとうございました。お陰様で音楽会は成功裡に終わることができました。

私達は音楽を聴いて思わず微笑んだり、悲しい気持ちになったり、力強い心が湧いてきたり、優しい気持ちになったりします。音楽は音という言葉で私達の心に語りかけてくれます。

1年生の「かえるのがっしょう」では、初めての鍵盤ハーモニカに挑戦し、工夫を凝らした合奏を披露してくれました。「ウンパッパ」「だれにだっておたんじょうび」は、リズムよく、元気いっばいの歌声で歌いました。

2年生は「パッヘルベルのカノン」と「トルコ行進曲」の2つの合奏に取り組みました。「パッヘルベルのカノン」では、鍵盤ハーモニカを使って7つのパートに分かれて次々に音が重なっていくすてきな演奏を聴かせてくれました。7つのパートをそろえて演奏するのは大変難しい挑戦だったと思います。「Let's Go TAMAGO!」は、自分の殻を破って、新しい自分に成長していこうという思いを込めて歌いました。

3年生の「またあそぼ」は、初めて習ったリコーダーで練習を重ね、歌を入れながら演奏しました。夕暮れに「また、遊ぼ。」と言って家に帰っていく雰囲気が出ていました。また、綺麗な歌声で一つしかない地球を大切にしていこうと歌った「星の色」は聴いていて、身近なものを大事にしたいという心を呼び起こしてくれました。「山ねこバンガロー」は愉快的なリズムの曲をノリノリで演奏していて、こちらも楽しくなりました。

4年生は「全員太鼓」「村祭」「ソーラン節」と和太鼓を中心に合奏しました。会場がまるでお祭りをやっているかのような盛り上がりになりました。腰

を落として和太鼓を打つ子ども達の姿がとても凛々しくかっこよかったです。「チャレンジ!」は、何でも挑戦していこうという気持ちにさせる元気な歌声でした。

5年生は、小さな事でもいいから一歩を踏み出す勇気を与えてくれた「すてきな一歩」、友だちの大切さを伝えてくれた「友だちだから」の2曲を澄んだ歌声で歌いました。「カルメン前奏曲」は、いろいろと曲調が変わる曲を、みんながよく合わせながら演奏しました。

6年生は、夢を信じて生きていこう、みんなの力で地球を平和にしていこうという心を込めて「Wish~夢を信じて」と「HEIWAの鐘」を合唱しました。何をメッセージとして伝えていくのかを考え、一つ一つの歌詞を大切にしていきました。「アフリカンシンフォニー」は、ボンゴやコンガ、ティンパニなどいろいろな楽器を使って、雄大なアフリカの大自然の雰囲気が出るように演奏しました。

思いが溢れた演奏や歌に出会った時に、人は自然に拍手を送りたくなります。井荻小の音楽会は、まさにそんなことを感じさせる音楽会でした。

音楽は、音を奏でる楽しさ以外にも様々なことを教えてくれます。仲間と一緒に声を重ねたり、合奏したりすると、一体感を味わうことができます。そこには必要のない音など一つもありません。他者の気持ちを理解し、受容し、共に生きることの大切さに気付かせてくれます。

音楽会の裏では教員と子どもにしか分からないドラマもあったことでしょう。「教室に入ってきたら先生が泣いていた。」等の子どもたちの感想や、「演奏が終わった時、涙が出てきた。」等の教員の話からも、教員と子ども達も一体感を感じていたのだと思います。

保護者の皆様からも「感動しました。」「涙が流れました。」等の温かい感想を多数いただきました。土曜クラブの琴教室やPTA音楽サークル「うらら」の素晴らしい演奏やコーラスも音楽会を大いに盛り上げてくれました。

保護者・地域の皆様に支えられ、子どもたちが思う存分に自分の力を発揮したこの音楽会で学んだことをこれからの生活に生かしてもらいたいと思います。

2学期の思い出

1年 生活科「あきとふれあおう」どんぐり教室

「どんぐりノート」の作者の大滝玲子先生を招いてどんぐり工作をしました。やじろべえやコマ、車やケーキ、カレンダーやリースなど、自分が作りたい作品を楽しみながら作ることができました。その後の学習では、習ったことを生かしながら、友達と作品を作り、「秋パーティ」を開くことができました。



2年 国語(図書)「井荻書店をひらこう」

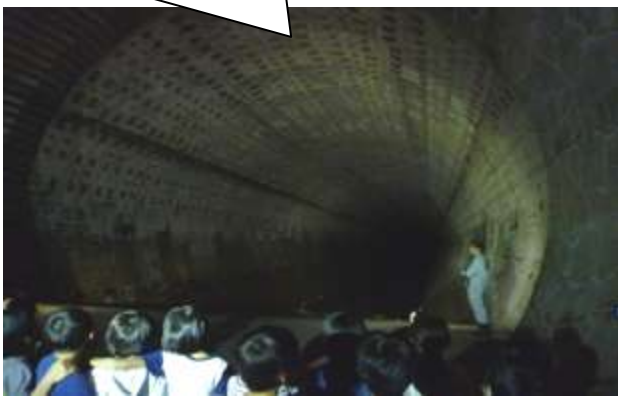
図書の時間に「本の帯」を作りました。帯を見ただけでつい読みたくなってしまおうようなキャッチコピーを考えたり、表紙に合わせた絵を描いたりしました。

帯をつけた本を飾って「井荻書店」開店です。今まで読んだことのなかった本も、「あ、おもしろそう!」と手に取る子どもたち。本の世界がまた広がりました。



3年 「社会科見学」

初めての社会科見学では、トマト農園・善福寺川取水施設・郷土博物館へ行ってきました。取水施設のおかげで安心して暮らせることが分かったり、郷土博物館では、囲炉裏での火吹きや石臼を引く体験もし、昔の人の暮らしを体感したりすることができました。どの施設でもたくさんのことを学ぶことができました。



4年 社会科「玉川上水について」

社会科見学で、羽村市郷土博物館と立川防災館に行きました。羽村取水堰では、教科書で学習してきた取水堰や玉川兄弟の工事の様子について、実際に目で見たりお話を聞いたりしてきました。約360年前に43kmにも及ぶ工事をしたということなど、当時の人々の苦労や高度な工事の技術に驚かされました。

学んできたことを新聞にまとめています。



5年 「連合音楽会」

杉並公会堂で行われた連合音楽会。大きな舞台で大勢の観客を前に緊張しながらも、立派に演奏してきました。ソプラノが主旋律を歌い、そこにアルトの声をきれいに重ねて歌った「友だちだから」。曲想の変化を意識しながらみんなで息をそろえて合奏した「カルメン前奏曲」。毎日の練習をがんばったからこそ味わえる達成感が終わった後にありました。



6年 「連合運動会」

秋晴れの下、近隣6校の6年生が上井草スポーツセンターに集まりました。直線を駆け抜けた100m走。朝練を重ね、自分の記録に挑んだハードル走・中距離走・走り高跳び。そして、何度も練習と話し合いを重ね、クラスの目標を達成した長縄。努力の分だけ、大きな達成感を味わい、クラスや学年の絆を一段と深めました。



井荻小学校の特別支援教育の取り組み

特別支援教育コーディネーター 中野 眞美

学級（集団）の中には、いろいろな子どもがいます。誰にでも得意なこと、苦手なことがあり、計算はすごく速いけれど人の気持ちを考えることが苦手な子、やる気はあるけれどじっと座っていることができない子など。そんな子どもたちに「がんばれ」「努力が足りない」と言ってもできない自分が嫌になるだけです。うまくできず困っている子どもに、なぜできないのか、何が苦手なのかと考え、手助けするのが特別支援教育です。井荻小では、一人一人の困り感に寄り添い、一緒に話し合い、知恵（支援の方法）を出し合うことを校内委員会中心に取り組んでいます。

たくさんの子どもたちを見ていると、一人一人の子どもの成長・発達は、直線でなくらせん状に進んでいくものだと感じています。時には、足踏みをしたり、後戻りをしたり、時には速く、時にはゆっくりと発達課題をクリアしながら進んでいきます。

井荻小では、発達課題（育てたい力）を低・中・高学年と分けて考えています。

低学年：学習習慣を付ける時期（学習習慣がつけば、学ぶ基礎ができ、学力が付いてくる）

中学年：学力を付ける時期（概念形成をしっかりと育てる。基礎が身に付くことで学習が分かるようになる。自分に自信がもてる。）

高学年：自己肯定感をしっかりともてる子にする時期（自己肯定感がもてないと、自分の弱さを集団内に出すことができず、結果的に自分の苦手を克服できないことになり、さらに自己肯定感が育たない。）

その時、その時で必要な力をきちんと付け、のびのびと自分の力を伸ばし、一人一人の力が集団としての力としても発揮できる学校、共に学び合える井荻小を目指し全校で取り組んでいます。

具体的な支援の方法や支援する人たちをご紹介します。

支援の方法

学校は集団で一斉に学習をするところです。しかし学習の定着が難しい場合は

□教室にもう一人先生についてもらって補助をしてもらう。

□スタディールームで個別に指導してもらう。

□時によっては専門の機関を紹介して専門的な指導が受けられるようにする。

などの支援の方法があります。

支援する人たち

●スクールカウンセラー（2名）週1～2日
子どもたちの様子を観察したり、面談することで子どもの悩みに寄り添ったり、保護者とともに支援の仕方を考えたりします。

●学習支援教員 週2日
教室に補助として入ったり、スタディールームで個別の学習支援をしたりします。

●特別支援教育コーディネーター（2名）
子どもたちの様子を把握し、先生方や保護者の方と話し合いながら支援の方法を考えます。

ご理解とご協力をお願いします！

お子さんのことでご心配なことがあるときは、担任やスクールカウンセラー、コーディネーターまでご相談ください。学校でも保護者の方にお声をかけ、一緒に支援を進めていきたいと思っています。特別支援教育校内委員会発行「ほっとほっとタイムズ」には、日々の子どもたちの様子からおとなへのアドバイスが掲載されています。ぜひお読みいただき、会話の輪が広がると嬉しいです。

12月行事予定

1	火	野鳥観察会（3～6年）
2	水	4時間授業 1-3研究授業
3	木	体育集会
4	金	保護者会（1・2・3年）
5	土	荻中フェスタ 囲碁・マナーキッズテニス
6	日	
7	月	委員会
8	火	保護者会（4・5・6年）
9	水	4時間授業 6年研究授業
10	木	安全指導 きょうだい学年集会
11	金	
12	土	土曜授業（内容は下に↓）
13	日	
14	月	クラブ お話会①
15	火	避難訓練
16	水	ふれあいタイム
17	木	ユニセフ集会
18	金	お話会② セーフティ教室（6年・薬物乱用防止）
19	土	囲碁・チャレンジキッズ
20	日	
21	月	社会科見学（6年）
22	火	
23	水	天皇誕生日
24	木	給食終了
25	金	大掃除 終業式
26	土	冬季休業日始
27	日	12月12日土曜授業内容
28	月	1年生 凧作り
29	火	2年生 縄を縛う
30	水	3年生 豆腐作り
30	水	4・5年生 善福寺川調べ発表会
31	木	6年生 茶道体験

「ものを大切に使おう」

生活指導部 山口 真

プロ野球のイチロー（鈴木一朗）選手は、アメリカのメジャーリーグの選手として毎年200本以上のヒットを打ち、10年連続の大記録を達成したすごい選手です。この記録は、なんと106年ぶりにぬりかえられた記録です。今も、マイアミ・マーリンズで活躍しています。そのイチロー選手には、有名なエピソードがあります。

ある時、そのイチロー選手に小学生が「どうやったら野球がうまくなりますか?」と質問しました。だれもが聞きたいことでしょう。その質問にイチロー選手はこう答えました。

「道具を大切にすることだよ。」

イチロー選手は、バットやグローブをいつもきちんと使えるように準備しておくこと、そしてその道具を使うことに感謝すること、これが野球がうまくなるコツだと話しました。

子どもたちの場合はどうでしょう。勉強で使う道具、鉛筆や消しゴムを大事にしていますか。新しい時は大事にするけれど、しばらく経つと、鉛筆を落としたり消しゴムをなくしたりしていませんか。鉛筆はいつでも使えるように削っているのでしょうか。教科書やノートに落書きはしていませんか。勉強も道具を大事にすることから意欲につながっていきます。

また、道具を大切にすることは、人も大切にすることです。「ものを大切に。」まずは身近なところから始めてみましょう。

※野鳥観察会は、保護者の方も参観できます。ぜひ、善福寺公園に来て、いっしょに野鳥を観察しましょう。（雨天延期）



日時：12月1日（火）
9:00～12:00

*薬物乱用防止のセーフティ教室も、どの学年の保護者の方でも参観できます。実際に薬物依存から更生された方のお話を聞くことができます。貴重な機会ですので、ぜひお越しください。

日時：12月18日（金）午後1:15～3:00 特活室

冬休み中の校庭開放

平成27年12月29日（火）から平成28年1月3日（日）までの6日間は、校庭開放はありません。

新学期始業式の予定

平成28年1月12日（火）
通常の登校時刻です。

困っています!!

ご家庭に学校から借りたままの上履きはありませんか?貸した上履きが戻ってこず、困っています。2学期中に返却してください。

☆また、小さくなって履かなくなった上履き（22.0～26.0 cmくらい）を寄付していただくと助かります。